

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム こばやしさんち	評価実施年月日	平成20年3月3日～3月7日
評価実施構成員氏名	小林 英里香 廣田 順子 小林 和枝		
記録者氏名	廣田 順子	記録年月日	平成20年3月8日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

□は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
○地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	利用者が閉じこもりのないよう外出する機会を多く持ちデイサービスセンターとの交流を図り、地域の人との交流を深め行事に参加し、少しでも楽しく暮らしていただけるよう努力している。		
○理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	外出行事の計画、カルチャー、食事の相談等、利用者様の意向を取り入れるように日々実施している。		
○家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族会や運営推進会議において活動報告の中で事業所の理念を伝えている。		
2. 地域との支えあい			
○隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の母子が遊びに来たり、犬の散歩の時に声をかけ立ち寄り下り、利用者とは触れ合うことがある。町内を散歩中に声をかけてくれたり、休憩のため花壇の石垣をベンチ代わりに提供してくださったり、花を下さったりする。(真冬はちょっと難しいが)		
○地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の盆踊り、敬老会に参加し、送迎を地域の人がボランティアで行ってくれたり協力的である。		
○事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	冬を除き地域を散歩する時は、ゴミ袋をもち地域や公園のゴミ拾いをしたり、街路樹の下の草取りをしている。(時に花を取ってしまったこともある)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価を受ける事は、サービスの質の振り返りになり、又、気付きがある。ケアサービスの質の向上によって利用者、家族の安心と満足の確保につながっている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	必ず理念を伝え活動報告をさせていただき「笑うようになった。元気になって外泊ができるようになった。家にいたら寝たきりになっていたかもしれない。」と評価を頂いた。花見は昨年は帰ってきてから食事をしたが、「花の下で食べたい」と言う意見があったので今年は花の下でしようと考えている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営基準など判らない点を確認のため出向いて行って意見を聞く等している。回数は少ない。旭川市と連携して質の向上を図るという点では不足している。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	グループホーム連絡協議会で行う勉強会には出席するように努めている。家族が必要性を感じ手続きに協力している。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止について学ぶ機会があれば積極的に参加し運営推進会議及び家族会と協力し情報の交換をし、高速禁止、ドアに鍵をかけない、オムツに排尿や排便をさせないでトイレ誘導など出来る所から取り組み基本的な人権の尊重に努める。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は必ず説明をし納得した上で入居して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>いつでもどこでも利用者の訴えを聞き、毎日のミーティングの中で検討できる体制を取り運営に反映できるよう連絡ノートで全職員に伝達し実践している。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>全入居者、家族が週に1回～月に1回は必ず面会に来て下さるため、その時に報告させていただいたり電話で報告させて頂いている。月1回は文書で報告したいと考えているが今は実践できてない。</p>	○	<p>現在は4日月に1回くらいホーム便りを作って面会時に家族にお渡ししているが今後は、月に1回写真などにコメントを添えてホームでの生活の様子をご家族にお伝えしようと考えている。</p>
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>定期受診以外の臨時に頻回の受診が必要になった場合は、入居者のケアサービスに影響することを家族に説明し、家族に協力していただいている。家族によっては、負担になることもあり家族と相談しながら対応している。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員の意見は、毎日の活動やミーティングの中で出てくるので、都度運営者に相談し面接を行ってサービスに反映するように努力している。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>必要時運営者、管理者に連絡できる体制をとり早めに解っているときは、ミーティングで調整している。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>1年くらいは職員は定着してと思われるが、離職を最小限にとどめるように働きやすい職場づくりを目指していきたい。(利用者の精神的安定に影響する)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>研修は、積極的に参加できるように勤務の調整をし職員の能力向上、ケアの質向上に努め利用者に反映できるようにしている。参加した職員は事業所内で報告し研修内容を職員で共有している。(月1回のこばやしさんちの全体ミーティングを利用して報告している)</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>グループホーム連絡協議会主催の勉強会で交流会には出席するように努めている。新規開設のGHの見学にも行っている。積極的に横のつながりを持ってサービスの向上に反映できるように努力したい。</p>	○	<p>運営者や管理者ばかりではなく、利用者に直接かかわっているスタッフの横のつながりが一番大事と思う。他の事業所を見学させていただいたり、実習をさせていただくことで、自分たちのケアの振り返りや気づきがあり、お互いにスタッフのケアに対する意識や質の向上に繋がると思われる。他の事業所と連携し実現できるように努力していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>食事会や社員旅行を行って日ごろの労をねぎらっている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>職員の心身の状況や職場環境を把握し職員と面接、職員の思いを聴いたり、役割責任、向上心を持って働けるように配慮している。また、外部の研修などがあれば出来る限り参加してリフレッシュできるように配慮している。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>本人より家族からの相談が多く、本人から直接聞き出すのはなかなか難しい。入居してからのかかわりの中で関係づくりをしてからの方が心を開いて話をしてくれることが多い。その機会を大切にして受け止められるように努力している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居時はGH事業の目的を説明させて頂いた上で家族の意向を聴いたり、面会時やケアプラン見直しやケアプランの説明のときに聴いたり確認をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族の利用者への思いや利用者がどう暮らしたいのか、どのように暮らす事その人らしいのかを健康状態や生活歴の中から引き出し段階を踏んで支援するように考えている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	和やかな雰囲気の中で安心してもらえるよう、明るく笑顔で接しスキンシップを取り入れ関係作りから入るよう配慮している。それを構築しながらその人らしさを本人と一緒に考えていこうと日々関わっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に献立の相談をしたり、一緒に料理をしたり家事をしたり、一緒に体操やゲームをしたり、寛ぐときも一緒にお茶タイムをし、歌ったり笑ったり個々の能力に応じた関わりをするように努めている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	基本的には職員も利用者も家族と考え、どうあれば本人らしく生活できるかを家族にこれまでの生活を聞いたり、昔使っていた馴染みの物を持参していただいたり、外泊に協力していただいたりと家族でなければ出来ない事をお願いしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人が安心して生活できる場をつくる事が家族にも安心していただけると考えている。利用者が元気を取り戻したり、出来なかった事ができるようになったり、笑いがでたりすることで、より良い関係が築けると信じ日々ケアに当たっている。また、職員が元気でなければならないと考えている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人が大切にしている友人との面会を大切にしたり、入居前に通所していたデイサービスセンターへ遊びに行ったり、馴染みの関係が途切れないよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ゲーム、レクリエーションの時には、職員が必ず混じって皆で参加できるように声掛けをしたり、お茶タイムでは、皆で食卓テーブルを囲んで談笑している。それぞれが自分の若い時の話に花が咲いて共感しながら「あの頃は、大変だったよね。あんたも苦労したんだね等」と相手の気持ちを労う言葉もでてきたり笑ったり、食べ物のお話で盛りあがったり、そんな中で利用者同士がその人なりの得意な部分や不得意な部分を知り、お互いに助け合い教えたり教えてもらったり、体の不自由な利用者が立ち上がると「○○へ行きたいんでないの」と心配して職員に教えてくれたりできるようになっている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院した場合はお見舞いに行ったり、自宅へ退所した時は2度ほど自宅訪問をしたりデイサービスに通所してきた時に声をかけて話を聴いたりしていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族から聴いたりお茶タイムの時に若い頃の世間話から、自然な形から、その人の思いを受け止めるようにしている。プライバシーに関しては、お部屋を訪問して個別に聞くようにしている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に家族に大体の事は聴いているが、お茶タイム等利用者同士が話をしている時に出てくる会話の中からも昔の生活の様子がわかる場合があり、むしろその方が自然に把握できている。その他家族が面会にきた時に足りない部分を聞いている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	少人数であり、リビングを囲むようにして部屋があり利用者の動きや表情はよく見えるので把握しやすい。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	少人数で毎日の行動や言動は見渡せる。見えない部分は個人記録や連絡ノートをつくり職員に意見を聞いている。また、センター方式のシートの記載をお願いしたり、直接職員から話をきいて計画に反映させている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態が安定しているため定期的な見直しは行っている。状況の変化があれば即した計画の見直しが必要と考えている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録には、毎日記録に目を通し情報を共有し必要時話し合いを持っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	定期受診以外でも家族が対応できない時は、事業所で支援している。日用品などの購入も買物代行をしたり、本人と一緒に買物に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員に依頼され地域の高齢者に認知症のお話をした。(資料はキャラバンメイトより抜粋) 日帰り温泉や外出行事は、ボランティアの協力を頂き安全の確保に努めている。 今後予測される事は徘徊に対し関係機関との連携が必要であり準備していく予定。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	福祉専門学校の発表会を観に行くために専門学校と連携し生徒の協力があり楽しく観覧させていただいた。ボランティア団体の劇団、生徒の合唱や吹奏楽、幼稚園児との交流を図らせていただき楽しんで頂いている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとの情報交換は、行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者の受診支援は、かかりつけ医に電話連絡したり、主治医への連絡票で健康状態や生活状況を情報提供し指示を頂きケアに反映させながら受診援助をしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	まずは、かかりつけ医に相談し、紹介と言う形で専門医を受診している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	運営者と管理者兼ケアマネジャーが看護師であり健康管理、医師との連携を図っている。また、職員に対する指導や利用者、家族からの相談に応じている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合は本人、家族に安心していただけるよう、また、早く健康回復していただけるよ病院と連携し支援して行きたい。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族や利用者に充分聞いているとは言えない。重度化した場合は、病院に移して欲しいと希望する家族もいる。家族や主治医と相談して決めていきたい。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期に対応した経験はないが、今後準備していく必要がある。	○	家族や本人の意向によっては対応が必要になってくると思われる。家族への確認、終末期ケアの手順やマニュアルを作成し対応に備えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>相談があったときからホームでの生活の様子、ケアの方法、困る事はどんな事か、在宅サービスの紹介など、本人が居心地の良い環境で生活できるように話し合った。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>玄関は、できるだけ一般の家に見えるように配慮している。部屋の入り口には花の名前をつけ、名字は入れていない。ケアをする時は尊厳をもって慣れ過ぎないよう気をつけている。記録の内容は名前で書かないようにし、ローマ字の頭文字を使うようにしている。利用者の反応で利用者に教えられる事があり大事に受け止めていきたい。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>時間がかかっても本人が決められるよう言葉で誘導しながら納得できるようにしている。迷っている時には、助言したり誉めるなどして納得していただける事がある。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者が楽しく生活できるようにレクリエーションやゲーム、カルチャーを考えたり、食べたいものがあれば近くのスーパーに買物に行っている。参加は自由だが私も参加しようと言う気持ちに慣れるような関わりを持つようにしている。他の利用者が誘ってくれる事も職員が助けられている。朝、今日は何をしたいかを聞く(散歩に行きたい)等自己表現できるようになってきたのでそれを大事にしている。入浴に関しては、曜日を決めているがゆっくり入っていただけるように工夫している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>昨日と違う服を着ているときなど「素敵ですね。似合いますね。」など誉めるよう心掛けています。お化粧の習慣がある利用者には続けていただいている。理美容は、本人の希望で出張理容をお願いしたり、家族の支援で行きつけの美容院にへ行っている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の好みや若い頃からの食習慣を把握し、献立を相談、作る喜び、食べる喜びを感じてもらえるように話をしながら一緒に作っている。また、職員がつくり方が分からない時もあり利用者がリーダーシップをとり教えてもらいながらつくる事もある。そんな時、利用者は非常に良い顔をしている。片付けも自主的に行えるようになった利用者もいて見守りをさせていただいている。時々私も、私もと重なる時には職員が間に入って調整をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在は、お酒やタバコを楽しむ利用者はいないが、入居者に合わせた支援はしていこうと思う。開設当初男性の方が入居していた時に、夕食時に晩酌をし食卓が明るくなった事がある。お茶、コーヒー、ココア、紅茶、昆布茶などを用意してあり希望に添えるようになっている。おやつは、季節や行事にあわせて考えている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	紙パンツの使用している利用者はいいるが、リハビリの継続(リハビリ体操、生活リハビリ等)で下肢筋力の低下を予防しトイレでの排泄が維持できるように支えている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	誘導がスムーズにいかないと入浴拒否がある為、職員がこまめに関わられる午後曜日を決めて入浴して頂いている。個々の希望には添えていないがゆったりと入浴して頂いている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動や食の満足感を得てもらい部屋の温度や光の調整をしたり、静かな環境で安心して眠れるように配慮している。また、眠れない人には就寝前に足浴をしたり、話をしたりリラックスして寝ていただけるように工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴を知り出来る事出来ない事、どこを援助すればできるのかを把握し役割を持って利用者が楽しんで生活に参加できるように支援している。台所には立てなくても食卓テーブルを使い椅子に腰掛けて調理の準備(食材を切る、刻む、味付けをする、合える)に参加できるように工夫している。日常生活では拭き掃除や掃除機かけ、洗濯物を干したり、たたんだり、植木に水をやったり積極的にできるようにしてきた。夏には畑づくりをし昔の記憶を呼び起こし職員が教えてもらいお互いに野菜づくりの楽しさを味わっている。花を育てる事も同様である。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	全員の利用者のお金を預かり金銭出納帳につけ家族に確認をして頂いている。小遣い程度は自由に使えるように本人もちにしているが、しまい忘れがあり度々一緒に探す事があり、本人の意向で1部の利用者は財布をあづかっている。買物に行ったり出張理容の代金は財布を本人に手渡して自分で支払いをするように支援している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	気分転換、社会との触れ合いや社会の動きに対する関心が薄れないように買物や社会見学、日帰り温泉、外食、冬祭りの見物などできるだけ外の空気に触れていただけるように支援している。最近では、買物に行き事業所の食器を一緒にえらでもらった。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	日帰り温泉では、生き生き浴槽を貸切人目を気にせず楽しんでいただき、好きな食事を注文し満足していただけるように支援している。家族会では、家族と利用者が一緒に食事をする機会を作り外出に出かけ大変喜んでいた。家族が忙しくていけなかった冬祭りの見物や福祉専門学校の卒業記念発表会に行き喜んでいただいた。今後も続けていきたい。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	今のところ手紙はないが家族からの電話や家族への電話の支援をしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者の友人や家族が面接に来やすい雰囲気をつくり訪問時には他の利用者と一緒に談笑しながらお茶を飲んでいただいたり、時間帯によっては、おやつと一緒に食べていただいている。食事時であれば利用者と一緒に作った昼食を食べていただいた事もある。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	リビングを囲むように個室が配置されており人目で利用者の行動がわかる。部屋から出てきてウロウロ行動していてもすぐ目に留まり速やかにサポートし談笑に誘ったり、お茶を飲んで頂いたり、歌や運動をして気分転換を図ったり、職員と一緒に地域を散歩するなどの工夫をしている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	外に出ることで気分転換になり、また、家族や友人や地域の人が入りやすいように日中は鍵をかけないでむしろ天気の良い日には、外でお茶を飲んだり玄関は開放にしている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	共有スペースであるリビングを囲むように個室、洗面所、台所、トイレを配置した設計になっており、部屋から出て来ると行動が目に入るため次の行動を察知し、早めのサポートができる。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	台所の刃物は必ず所定の位置に管理し消毒薬、薬品類は事務所で管理している。一人一人の行動に目配りし利用者の目に留まらない場所に管理している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者一人一人の身体能力を把握し予測される危険を察知し予防できるよう支援している。オール電化で発火の危険のあるものは使っていない。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時対応、蘇生法に関しては、手順を備えているが、対応の訓練は、全体ミーティング時ナースがデモンストレーションし勉強会をした。参加できない職員もいたため、計画的に訓練の必要性を感じている。	○	消防の救急の勉強会やホーム独自で勉強会を計画していきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	常日頃から避難口の確認をし、避難しやすいように物を置かないなど気をつけている。また、消化器の場所の確認、使い方を職員に指導している。地域の協力については、運営推進会議の中で働きかけていく。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者の疾病や身体機能の低下によって起こるリスクについては、必要時電話で家族に相談したり、面会時話をし家族や利用者の意向を聞き対応に備えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員全員が利用者の健康状態に関心を持ち、常に利用者の表情や動き、食欲を観察、いつもと違う時は、何が原因になっているのかを利用者本人や職員で共有し、早期発見対応に努めている。夜間の場合は、看護師と連絡取れる体制にある。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師が薬管理をし、職員に薬の説明をし正しい服薬ができるように努めている。薬が変わった時には、必ず口頭と連絡ノートで全職員に伝わるようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	利用者の排泄パターンを知り食事内容や運動や水分補給を怠らず便秘予防をしている。かかりつけ医に相談し座薬使用など指導を受け実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後声かけ見守りで実施。介助が必要な利用者は、不十分な部分を介助。毎日の声かけで自主的に出来るようになった利用者がある。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	3回の食事の時と10時、15時は、必ずお茶を提供。他に自分でも、いつでも飲めるようにポットに準備している。食事量の把握は、職員と一緒に食事する事で把握できている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日掃除を行い換気を行い空気をきれいに保つようになっている。手洗いや嗽を行い衣服を清潔に保つようこまめに洗濯をしている。特に調理器具や布巾の消毒はハイターで毎日行っている。トイレやトイレ前の床は、1日2回次亜鉛素酸を使って拭き掃除をし清潔保持に努めている。シーツ交換時には換気をしている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具(まな板、包丁)布巾は、毎日次亜鉛素酸につけて消毒。食材は、賞味期限や消費期限を確認し職員同士で伝達し職員全体が衛生管理に対し高い認識をもっている。利用者や調理に関わる人の衣類、手指、爪の手入れや手洗いは常に気を配っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	真冬以外には、衣類の調整をしながらホームの前にテーブルや椅子を設置しお茶タイムをしたり、外で体操をしたり、ホームの前にはアサガオの花を植え、玄関を開放し親しみのある雰囲気づくりをしている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食卓テーブルや応接セットは、色や形にこだわり一般家庭を思わせる雰囲気づくりに工夫をしてある。台所や浴室も一般家庭と変わらないつくりになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	家庭的な狭い空間ではあるが、一人一人が自分の居場所を見つけている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、できるだけ馴染みのものがあれば持参してくれるように説明している。そのほうが安心感に繋がり、落ち着いて生活できる事を家族と相談をし持ってきてもらっている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	1日2～3回窓を開け換気を行っている。風邪等流行している時は特に換気には配慮している。利用者には、換気の原因を説明しながら実施している。室内やリビングの室温をこまめに調整し利用者に不快な思いをさせないように配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの設置、玄関には、腰掛が設置され床はバリアフリーになっていて転倒防止に役立っている。また、家の中は絨毯で普通家庭と同じように靴を脱いで生活し、リラックスして生活できる。狭くて良いメリットでは自室からトイレまで広くないので家具に伝って歩くことが出来るため、ほとんど車椅子を使う事はない。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者の残された個々の能力を知り、出来る部分を活かし利用者の自信に繋げ、出来ない部分は少しだけお手伝いし、出来る目を摘まないように支援している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	グループホームの周囲にはわずかではあるが畑を作り、地域の人提供してくれた野菜や花を育て自分たちで育てた野菜を収穫し調理をし季節の変化を楽しんでいる。また、花を見て和んでいる。夏は、家の前にパラソルとテーブル、椅子を出しホームの前を通る近所の人たちと一緒にお茶を飲んだりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない</p> <p>① 利用者の関心は食べものに1番関心を持っている。また、日中の過ごし方などは、その人の趣味、活動を大切にしている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない</p> <p>① 食卓テーブルを囲んでお茶を飲みながら談笑</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>①</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>② 職員と一緒に行動することで、表情に張りが出たり、笑いが出ている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>② 外食や日帰り温泉、社会見学は、全員が参加される。近くのスーパーへの買い物などは希望者で外出している。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>①</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>② ほぼ毎日のように帰宅願望出現。一緒に外を10分位散歩し落ち着かれている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない</p> <p>①</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない</p> <p>②</p>

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	② 利用者に励まされたり、元気付けられる場合が多々ある。利用者様が元気になることが職員の元気に繋がっているような気がする。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	① 「家にいたら多分寝たきりになっていたと思う」「笑うようになった」表情がしゃきとしてきた。こんなに歩けるようになった。」「家族が連れて行ってあげられない所へ連れて行ってもらって有難い」等喜んでいただいている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点
等を自由記載)外出行事を取り入れ、日帰り温泉は年2～3回行なっている。食事の前の嚥下体操。リハビリ体操やテーブル上で出来るゲーム等でできるだけ身体を動かす。家事は職員と一緒にこなす。畑づくり(野菜や花づくり)。春～秋は、天気の良い日は外でお茶タイム。